

# IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第42回会合 発言録

2023年11月27日

【加藤】 それでは、定刻となりましたので、開始させていただきます。第42回の今日は活発化チームの会合でございます。お集まりありがとうございます。

それでは、アジェンダに沿って、山崎さん、下にちょっとスクロールしていただけますか。恐れ入ります。

まず、今ちょっと確認をしたことですが、特に今日、総務省の方、最近の御報告とかアップデートいただくことはありませんでしょうか。総務省から御参加の方いらっしゃいますか。

【片柳】 お世話になっております。片柳と申します。総務省から今唯一参加していると認識しているんですけども、すいません、私のほうでは今回この場で申し上げるべきことというのは特に承知していないんですけども、私も今違うところから参加していて状況が読めないところでして、もし後から参加するメンバーの中でありましたら、後ほど追加で申し上げたいと思います。

【加藤】 そうですか。分かりました。じゃ、後で参加いただく可能性があるということで、ちょっとそれは後にさせていただきます。とんでもないです。ありがとうございます。

順に沿って、MAGのほうからもし何かあればということで、河内さん、お願いいたします。

【河内】 河内です。MAGは、去年・一昨年は第1回目のバーチャルの会、リモートの会議がいつも1月の中旬ぐらいに行われていたんですけど、今年は先週、つい二、三日前に日程調整の連絡が来たので、12月の中旬ぐらいにやることに、まだ決定してないんですけども、やることになると思います。恐らく今年IGF自体が早かったんで、第1回目は12月にというものではないかと思えます。中身、議題とかそこまで何も来ていないので、中身まではっきり分からないんですけども、そういう予定になっています。MAGはそんな感じです。

NRIは先週会議があって、山崎さんがちゃんと報告を書いていただいていたと思います。一応私も参加していましたが、皆さんが会議の報告、京都会議の感想とか、いろんなそういうことを何か言ったりしていました。以上です。

【加藤】 河内さん、ありがとうございます。例年、第1回目の会議、MAGの会議というのは大体どういうことを議論するんでしょうかね。

【河内】 ほとんどイントロダクションで、その年から入ってくる人たちに、MAGの役割とか、どういふことをやるとか、1年間のタイムラインとか、そういう説明をする、ほぼほぼ導入的な会合です、1回目は。

【加藤】 ありがとうございます。今年も一応3分の1ぐらゐは交代したということですね。河内さんが今度からまた3年目に入るといふことで、あと1年お疲れさまですが、よろしくお願ひします。

12月にそのイントロダクションがあつた後、2月ぐらゐですかね、その次といふと。

【河内】 多分、物理的な会合は2月の下旬か3月の初めだと思ふので、もう1回ぐらゐバーチャルやつてからになるんじゃないかと思ひますけど、そこはまだちゃんと報告されているわけじゃないので分からないですが、日程的にはそんな感じかなと思ひています。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。何かMAGの河内さんへの御質問等ございませうでしょうか。

それでは、もしあれば、また後でも、河内さんいらっしゃると思ひますので、質問していただくとして、次の項目に移りたいと思ひます。

今日、主に議論していただく内容の1つだと思ひますが、IGFの2023年の報告会について、プログラム委員会のほうで山崎さん中心にお骨折りにいただき、大分いろんなことが決まりつつあるといふことで、これ進捗や参加可能性のある方々について、山崎さんのほうからお話いただいてもよろしいでしょうか。

【山崎】 はい。その前に、先ほど飯田さんが入られたので、総務省からの報告をお願いしたほうがよろしいかと思ひました。

【加藤】 ぜひぜひ。飯田さん、お久しぶりでございませう。改めてお疲れさまでした。西潟さんも今入られていますね。最近のIGFに関連したこと、インターネットガバナンスに関連したことでお話しいただければと思ひます。飯田さん、いかがでしょうか。

【飯田】 すいませう、遅くなりまして。改めて京都のときにお世話になりました、ありがとうございます。本当に皆様のおかげをもって大変盛況で、とても成功したと思ひています。国連の事務局からも、とにかく過去最高のIGFの年次会合だったといふふうにならされましたし、会う人、会う人、最高だったと。

一番ふるっているのが、スイスの大使が、IGFというのは終わったときに毎年今年が最高だったと言うものだ。と言いつつ、でも、今年の（イベント）は将来にわたってずっと最高だというふうに言ってくれて、本当にみんな喜んでくれていました。

会合のセッションの中身もそうですし、ホスピタリティーとか、京都という場所がよかったこともあると思いますけども、いろんな日本の文化や人間や、問題意識も含めて、いろんなことを世界の人たちが楽しい、かつ真剣に一緒に議論してくれたというふうに思っています。

私自身はバイばかりやっていて、セッションはあまりのぞけなかったのもまた、また後で記録を見たり、ビデオを見たりして、また遡って勉強しようと思っているんですけども、皆さんもいろいろなところをのぞかれたり、あるいは登壇されて、いろいろ学びや御貢献もあったと思いますので、ぜひこれを共有していただいて、また来年以降に向けて、あるいは国内の取組に向けて御活用いただければ何よりと思います。

その後は、まだ事務局でも今年の総括をやっているところで、一方で、来年に向けてのMAGのメンバーも決まり、来年のテーマの選定も多分始まっていたかなと思いますので、また、来年に向けてはテーマ設定から、今年1年間でいろいろプロセスが大分分かったと思いますので、それも1つの糧にして、貢献あるいはリードしていけるように一緒に頑張っていければと思います。

来年は何といっても、現地にいらした方はお分かりになったと思いますが、ホスト国サウジということで、それ自体が結構議論になっちゃっていて、舞台裏ではいまだにああだこうだという議論が続いています。ただ、ホスト国というのは決まっていると思いますので、できることなら、これを機にサウジのインターネットガバナンスやデジタル政策がいい方向にどんどん変わっていくようにという、きっかけになればと。

実はG20も3年前、日本の次の議長国だったんで、ちょうど同じ巡り合わせなんですけど、そのときも結構一緒にいろいろ話はして、我々は割とちゃんと、何というんでしょう、民主主義的な発想で話を聞いてくれると、少なくとも議論の中ではという印象は持っていますので、来年のIGFもいい大会になるように、みんなでもた協力してあげられれば、あげられればという言い方はちょっと不遜ですけども、協力できればと思っています。

あと、IGFの関係で言うと、来年の未来サミット等に向けて、GDC（グローバル・デジタル・コンパクト）の議論がいよいよ本格化することになっていまして、ここをちゃんと見据えてフォローしていきたいと思っていますし、これがそのままWSIS+20につながっていくと思いますので、やはり京都でも繰り返し強調したように、マルチステークホルダーによるインターネットガバナンスというのがしっかり強化推進されて、WSIS+20を超えてもさらに続いていくということを目

指して、いろんな国のいろんなプレーヤーと協力していきたいと思いますので、ぜひ皆様の御指導・御協力をお願いできればと思います。

ちょっとアップデートとしては簡単ですけども、以上になります。

【加藤】 飯田さん、ありがとうございました。改めて本当にお疲れさまでした。最高の会議を最高の総務省様、御開催いただきまして、皆さん大変感謝しているものと思います。ありがとうございました。

飯田様せっかくいらっしゃるので、ぜひ皆様コメントとか御質問あれば、よろしく願いします。いかがでしょうか。

【飯田】 すいません、実は15分に出なくてはいけないので、あと二、三分しかないです。

【加藤】 二、三分とのことです。1つ、2つ御質問でも何でも結構ですが、いかがでしょうか。貴重な機会ですけど、大丈夫ですか。

【飯田】 こんな世知辛くなくても、またいつでも私はおりますので、また何でも。

【加藤】 よろしく願いします。

【飯田】 どうもすいません、慌しくて申し訳ないです。

【加藤】 とんでもないです。引き続き御支援のほどよろしく願いいいたします。

【飯田】 よろしく願いいいたします。失礼いたします。

【加藤】 ありがとうございました。

同じように、西潟様のお名前を拝見したんですが、西潟様から何か付け加えるというか、別の観点からでも結構ですが、何かございますか。

【西潟】 いや、前回申し上げたこと以上のことはないです。すいません。ありがとうございます。

【加藤】 分かりました。じゃ、後ほどまだ本日アジェンダございますので、引き続きよろしく願いたいと思います。

ということで、先ほどMAGのお話も河内さんからいただいて、その2つの報告を受けて、今度、IGFの2023年の報告会のお話を山崎さんにさせていただくというところだったと思いますが、もう一度、山崎さんに戻していただいてよろしいですか。よろしく願いします。

【山崎】 あまり時間がたたないうちにIGF報告会をとということでしたので、調整を進めてまいりました。残念ながら、前回いただいたお題では今日全て決まっているようにということでしたが、まだちょっと未確定なところがありまして、最終決定には至っていません。ただ、かなり候補の方々はお返しいただいたので、開催にこぎ着けることについては問題ないと思います。

大体基本的な線は、今共有している表のような感じになるんじゃないかということなんですけども、実際には皆さん1時間フルに使う方がどれほどいらっしゃるのかというのを確認してから、多分30分が2つになったり、もっと短い細切れのセッションが幾つもできたりということになりそうです。

日程は3つ候補をつくりまして、登壇を打診した方々にお伺いしているところですけども、今のところだと、12月26日火曜日、27日水曜日、この2日間になる可能性が高いです。ですので、年を越す前にIGFの御報告ができそうです。枠としてはそんなところですよ。

内容については、事前会合と申しますか、日本インターネットガバナンス会議2023というのを9月にやりましたけれども、そこに登壇いただいた方には全部打診して、それ以外にも会場でお見かけした方とか、日本から登壇した方々に声をかけさせていただいております。

もし皆さんの中から、この人にはぜひというのがあれば、この場でコメントをいただければと思います。

それと、ですから、基本方針としては事前会合と同様、日本で開催されたIGFですので、日本人で登壇された方、日本人でというのは正確じゃないですね、日本にいらっしゃる方で登壇された方、それから日本にいらっしゃる方でセッションを企画提案して通った方々などを中心に声をかけさせていただいて、日本語で報告すると。

当日いらっしゃれなかった方についても、日本語で大体どんな感じかを知っていただくというのがこのIGF報告会の主な目的なんじゃないかと思いますというか、その辺はプログラム委員の方々にも議論いただいて、いま一度確認したところではあります。

登壇に候補者全部一々上げることはしませんけど、先ほど報告いただいた飯田さんも御登壇、飯田さんは政府からいろいろ急に御依頼が来る可能性もあるということで、直前まで分からないところありますけど、今のところ御登壇いただけそうというお返しはいただいております。

あとは、前回事前会合で御挨拶いただいた村井純慶應義塾大学教授ですね。彼もなかなかお忙しくて御都合つかないことが多いんですけども、今回はぜひとも会場にいらっしやりたいということで、お越しいただけそうな感触を得ています。

そんなところかと思えますけれども、加藤さん、もしくは御参加の皆様、御質問とかあれば、ぜひお願いします。

【加藤】 山崎さん、ありがとうございます。いろんな方に声かけていただくメールの数だけでも大変な御苦勞だったと思います。本当にお疲れさまでございます。いつも大変申し訳ないですけど、ありがとうございます。

今のところ、3つの日程の可能性の中で、12月26日、27日になるべく多くの方が御参加いただくということで、最適だろうということですね。

【山崎】 はい。

【加藤】 そういう意味で、できれば今日この場で、その前提で企画をするということが時間的にもいいのかと思えますけど、特に年内にやるということになると、可能性として、この26、27以外は1月の2つのタイミングを打診はしていたんですが、それと比べて12月が一番皆さん御都合がよさそうということなので、いかがでしょうか。今日、この会で、特にこの26、27だと、こういう理由で不都合があると。クリスマスの前後というのは海外だとちょっと問題かもしれませんが、皆様方も年末の大変お忙しいときかもしれないですが、いかがでしょうか。まず、日程について、できれば今日決定したいと思いますが、どなたか。

【山崎】 加藤さん、最後の「どなたか」の前がちょっと音声途切れました。

【加藤】 失礼しました。日程について御意見ございますでしょうか。できれば26、27で決定ということにしたいと思います。

ということで、本田さん手を挙げていらっしゃると思いますので、本田さん、お願いします。

【本田】 日程は、日付は皆さんそれぞれの都合があるので、何とも言えませんが、端的に、この60分3本というのがちょっと長いんじゃないかなという気がしたんですよ。もちろん報告の中身なんで、プラス、その中に質疑応答とかもあるとすると、確かに60分というのは必要には必要かもしれないんですけども、ただ、オンラインで今回中継もあるのかどうか分かりませんが、全体的にちょっと中だるみをするというか、逆に、短いセッションで20分で3本とか、そういう細かいものがあるならあれなんですけど、なかなか60分というところの、1コマが60分というところだと長いのかなという気がします。

だから、全体的には2時間プラスアルファぐらいに収まれば、2日開催でももちろん選んで参加されると思うんで、いいとは思うんですけども、そのほうがいいんじゃないかなという感触、体感的なところですけども、そういう気がします。

【加藤】 ありがとうございます。

【本田】 ついでだから、感想セッションというのはどういうことを想定しているのか分かりませんが、順番でいったら、この報告があった中で、それも踏まえての感想セッションというほうがいいような気がしますけれども。

【山崎】 順番として、報告の後に感想セッションを持っていったほうがいいという御意見ですね。

【本田】 そうですね。いきなり席に着いて、さあ皆さん感想どうですかと言ってもあんまり出てこない気もするので、項目でいうと2、3のところをやってから、それも踏まえた感想というか、そういう感じもいいのかないかなというところで、それを言うんだったら、2日目も意見交換の中で感想も含めなのか、でも、こういうディスカッションタイムはすごくいいのかなという、リアルならではの取組ができると思います。そういうコメントです。

【加藤】 コメントありがとうございます。山崎さん、お願いします。

【山崎】 確におっしゃるとおりなので、順番を入れ替えたいと思いますし、2日目も何とか感想を言う機会をつくりたいと思います。

60分は長過ぎるというのは確におっしゃるとおりで、登壇候補者に打診しても、60分はちょっと難しいという方がむしろ大勢ですので、長くても30分、たくさんセッション持っていらっしゃる方もいらっしゃいますので、そういう方は60分になるかもしれませんが、むしろ60分より短いセッションのほうが多分実際には多くなると思います。

そういう意味では、60分ばかりの表はあまり現状に即していなかったかもしれませんが、すいません、アップデートがあまりできておりませんでした。

【加藤】 そういう意味で、山崎さんがいろいろアレンジ、皆さんとコンタクトしていただいて、おっしゃるとおり、30分程度を考えていますというような御意見もいただいていますので、その辺、この26、27で皆さんよろしければ、それで最も皆さんに御都合のいいタイミングにうまくこれを割り振って、ここにあるように、1日2セッションに限らず、場合によっては3セッションで、30分が3本とか、そういうように、あとは具体的な皆さんの御希望に沿って割り振るというふうにさせていただければと思うんですが、いかがでしょうか。

そういう意味で、山崎さん、今、この2日間ということになると、4組以上大丈夫そうですという方いらっしゃいますよね。

【山崎】 はい。なるべく多くの方に登壇する機会があるほうが望ましいと思いますので、中には10分という方もひよっとしたらいらっしゃると思いますので、セッションの数はこれより増えると思います。

【加藤】 そうですね。その辺もプログラム委員会のほうで割り振り等の具体的な作業をやらせていただくという前提で、皆さんいかがですか。まず、12月26日、27日かどうかで、その日は無理だという方も中にはいらっしゃるのでは、その辺と併せて、日程だけ決めさせていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。その頃はこういう理由でまずいだろうと、中には個人的にも御都合悪い方もいらっしゃると思いますが、そういうことも踏まえて御意見ございますか。

【山崎】 山崎ですけれども、もう1点だけ補足させてください。さっき本田さんがオンラインもやるかどうか分からないというふうにおっしゃったんですが、これはハイブリッドでやるつもりですので、会場に来られなくてもオンラインで参加することは可能です。

【加藤】 ありがとうございます。いかがでしょうか、日程に関して。沈黙は特に異議なしというふうに理解してよろしいでしょうか。

【立石】 はい。異議ありません。

【加藤】 ありがとうございます。それじゃ、今日この場で。

【山崎】 堀田さんと本田さんが手を挙げていらっしゃいます。

【加藤】 失礼しました。堀田さん、お願いします。

【堀田】 異議なしです。何時頃とかって想定あるんですけど。

【山崎】 ごめんなさい。それ書き忘れていましたね。15時半から18時半の間ということにしていたはずですが。今、確認しますので。その間、本田さんの質問を。

【本田】 私も同じ質問でした。タイミングの。日付はいいとしてタイミングはどうなのかなという。



【加藤】 もし2時間半になるなら15時半から18時までとか、そういうことはちょっと調整させていただくとして、2日間にわたって午後3時半からの前提で、最も適した割り振りをするという前提ですね。

【山崎】 確認しました。15時半から18時半で登壇候補の方々には打診しているところです。多少延ばしたりしてみたりは可能です。

【加藤】 須賀様もさっき手を挙げてらしたかもしれないですけど、よろしいですか。

【須賀】 すいません、手を挙げたのではなくて、異議なしということでメッセージさせていただきました。すいません。

【加藤】 いえ、とんでもないです。ありがとうございました。あとの方がいいでしょうか。

特になければ、いきなりで恐縮ですが、今年のIGF報告会は12月26日、27日の午後3時半から最大3時間ずつ程度で、詳しいプログラムの割り振りについてはプログラム委員会にお任せいただくということです。プログラム委員会も常にボランティアベースですから、これからそのあたりにも参加していただけるという方があれば、参加していただくのは大いに歓迎だと思います。

ということで、山崎さんどうでしょうか。これだけいただいたら、あとはプログラム委員会のほうで割り振りをさせていただくということで、あと、山崎さんのほうで例によって御準備等やっていただくと。あと、前回の9月と同様に、CFIECの河内さんのチームで結果について簡単にまとめを作っていただいて、英文の報告も準備する、そういうことでよろしいでしょうか。山崎さん、河内さん、いかがでしょうか。

【山崎】 私は構いませんけれども。

【河内】 前回と同じような感じで大丈夫であれば、大丈夫だと思います。

【加藤】 皆さん、そういう前提でということだと思います。それじゃ、ここに書いていただいたとおり、詳細はプログラム委員会で割り振りをし、準備はJPNICさん中心にやっていただいて、あと、レポートはCFIECさんのほうで検討いただくということで、今年も12月26日、例年なかなか1月、2月になったのが早くできるということで、盛り上がりをもそのまま続けられる結果になると思います。

あと、この場であれですけれども、先ほど意見交換、感想を述べるという部分も、ぜひ、事前にある程度、山崎さん、これも5分ずつ何かしゃべっていただくとか、そういうことも過去の例からして考えるわけですね。

【山崎】 はい。ですから、それを。

【加藤】 最初にするか、後にするか、途中にするか。

【山崎】 発表の後に持ってくるということにしたいと思います。

【加藤】 そうですね。後という場合に、例えば、3時半から発表していただいた方で残っていただいて、そこはこうでしたねという意見交換的な形になるかもしれませんが、その辺はかなり臨機応変にやるということで、過去もそうだったように、検討いただくということだと思います。

報告会に関してはそんな感じでよろしいでしょうか。何か確認しておきたいこと等ございますか。

堀田さん、高松さん、プログラム委員会いろいろコメントいただいてありがとうございます。このような進め方でよろしいでしょうか。

【高松】 いいと思います。

【加藤】 ありがとうございます。それじゃ、報告会についてはこれだけで、あと、終わりまでに何かのお気づきの点とか御質問あれば出していただくということで、次に、このIGFの活発化チームの今後の問題ということで、次の議題に移らせていただきたいと思います。

前回、この会議で、私から8項目で基本的な今後の活動についての考え方というのを outs させていただきました。それについて今幾つかコメントいただいていますけれども、山崎さん、それを出していただくことができますでしょうか。

それを出していただいている間に、基本的には極めて一般的な内容を書いたということで、今までタスクフォースとIGCJ、それから、この活発化チームという形でいろんな活動を日本の中でやってきたわけですが、京都の盛り上がりではみんな一緒になって頑張ったということもあって、みんなが一つに統一して活動できないかということ。さらに……。

ありがとうございます。今申し上げたことですね。それで、今まで活発化チームもタスクフォースもそうだったわけですが、どの活動もボランティアベースの任意団体ということで、いろいろな活動上の制約があったので、この際、それらを一つにすると同時に法人化をするということがキーになっています。

ただ、活動としては、項目にありますとおり、ボランティア精神でやるということですが、そういう意味で、費用は最小限で手弁当でやる部分は継続しますが、そうはいつでも、そういうことならいろいろな支援もしたいと言っていたということもあると思いますし、西潟さんのお名前もありますので、申し上げますと、政府からもいろんな形で御支援いただけるんじゃないかということも期待しております、そういう意味でも、法人化することによってそういう正式な受け皿ができるということになるのかなと思います。

そういうものが軌道に乗ってくれば、当然、事務局のきちっとした組織化なりも今後検討することになると思いますが、当面は予算が幾らとか、昨年この場でいろいろと法人化の議論をさせていただいたときに、3,000万要るとか1,000万要るとか、そういう議論がありましたけれども、今は、これだけのお金がないとそういう活動ができないとか、そういう形ではなくて、ミニマムでスタートするというところで考えると。

それから、活動として、IGFをフォローするという言い方ではなくて、もう少し広くインターネットガバナンスの議論ができる場とする。そういう意味で、会議を単にこの活発化チームの毎月の会議のような内容だけではなくて、懸案の定期的にいろいろな 이슈ごとの検討会とか意見交換会とか、御意見を発表してもらう、講演を聞く、そういうようなイベントを幾つかやっていきたいということで、そのために、それに必要な委員会だとか部会、委員会のイメージは、先ほどの報告会もそうですけれども、そういうイベントを企画するための委員会という意味で言葉を使っていますし、部会というのは、例えば、その中でインターネットセキュリティーとか、分断化への対応とか、そういう個別の 이슈に関して、検討する部会なりを考える。

そういう部会というのは、当然IGFということから考えると、例えばIGFのダイナミックコアリションとかベストプラクティスのグループとか、そういう活動を支えられるような、そういう仕組みとしての部会というのを考えるということでございます。

そういうものを必要、今、山崎さんと自主的に事務局機能をやっていただいている方を正式に事務局というふうに名前をつけさせていただいて、事務局としても形式化するという、そういう内容でございます。

それで、ここちようど見せていただいたとおり、いろんな方からコメントいただいておりますが、改めてたくさんコメントいただいた堀田さん、いきなり指名して恐縮なんですけど、堀田さん、高松さんのグループからいろいろコメントいただいているんですが、いかがでしょうか。書いていただいたことを併せてそれについて何か御意見、まとめていただけるとありがたいんですけど、いかがでしょうか。

堀田さんがいらっしゃらなければ、高松さん、いかがですか。いろいろ書いていただいて、それらをもう一度まとめていただくということでも結構なんですけれども。

【堀田】 私から行きましょうか。

【加藤】 お願いします、堀田さん。

【堀田】 もうちょっと上を見せてもらえますか。緑で書いたのは、これもコメント書く場所がなかったんで、全体に対してここに書いたんですけど、反対する点は特にはないので、サポートするんですけども、今まで活発化チームの中でやっていたことから大きくはみ出して、思いとしてははみ出していないので、それが、はみ出さないで今まで以上のことができるのかというのが直感的によく分かっていないという感じですね。

例えば、活発化チームが走りながらタスクフォースというのができて、そこに、勝手ながら、いろんなステークホルダーを巻き込んでくれる企業とか、巻き込んでくれるだろうというふうに期待していた。それはあまりうまくタスクフォースとしてはいかなかなので、そこでタスクフォースがなくなる前に、何かタスクフォースをお願いして、会員組織を集める等をやってもらったほうがいいんじゃないのというのは、これが一つの思いとして書きました。というのがこの緑のところですね。

どうしましょう。

【加藤】 順に検討しますか。それとも、まとめて言っていただけますか。

【堀田】 じゃ、ざっと御紹介することにします。

【加藤】 お願いします。

【堀田】 今度、右側の帯のところに盛り上がったというふうに一番最初に書かれているんですけども、どう盛り上がったのかが分からなくて、人がいっぱい集まったというのはおっしゃるとおりなんですけど、NRIから見てどう盛り上がったのか。いい盛り上がりだったのか、そうでもなかったのかというのは、1回分析というか、評価してみないと、本当に盛り上がったと言い切っているのかどうか、NRIとしてですよ。盛り上がったと言っていいのかどうかというのは考えたほうがいいのかなと思いましたというのが次に書かれていることで、その次の、例えばという、これを開けていただくと、マルチステークホルダー満遍なく集めるとというのが、盛り上がりを測る1つの軸だとすると、合格点だったのか、これも1つの軸としてどうなんでしょうねという話。

さらに下のほうに帯で行っていただくと、ちょっと高松を飛ばして、私まだ書いていますね。テックコミュニティーが結局中心になって引っ張ろうとしてきて、活発化チームにはテックコミュニティーの方以外も入っていただいて、少し広がりが出たんですけれども、やっぱり集まりの最初がテックコミュニティーだということもあって、テックコミュニティー以外はなかなか集まってくれなかったかなというような感じがします。

テックコミュニティー以外を集めることにタスクフォースがさらに寄与してくれるといいなと思ったんですが、それはうまく行ったようには私には見えていないと書いています。

その次を見ていただくと、そろそろ最後だと思うんですけど、法人化は賛成です。サポートする企業や組織をいろんなコミュニティーから集められるといいですねというところですね。以上です。

【加藤】 ありがとうございます。多岐にわたってコメントをいただきまして。

じゃ、この段階で、この堀田さんの御指摘の幾つかについて意見交換したいと思いますが、まず、最初、タスクフォースが2つのそれぞれ、5つのグループが入ったわけですけれども、それぞれが2団体ずつ声をかけられないかと。マルチステークホルダーが本当に集まったのかという御指摘はその後にもあったと思いますが、これ、前村さんいらっしゃいますけど、前村さんに振っていいですか。

【前村】 前村です。今、手を実は挙げたところで。

【加藤】 ありがとうございます。

【前村】 そうなんですよね。今の御質問に直接お答えするという感じではなくなってしまうのかもしれないですけども、1つ、これ、活発化チームを今後どうしていくんだという議論の流れ、つまり、ジャパンIGF、日本のNRIを今後どうしていくかというふうな議論であるはずで、それで堀田さんが御指摘なさっているように、基本的に活発化チームでやってきたことの線上にあるので、分かりやすいし、そうだねって言いやすいというふうなところであると。

堀田さんの御指摘に沿って、私もそれをちょっと伸ばすような形でお話をするとすると、タスクフォースでやろうとしたことは、広範ないろんな方々の主には一般企業やインターネットって名前が付いていないような団体とか、それでも、だってインターネットは全てが寄与する、寄与というのか、波及するんだから、いろんな団体、いろんな会社が組まないといけないよねと言いながら、つくろうとしたんだけど、それがうまくいかなかったというのは私の不徳といたすとこ

るも多いんですけども、というふうな状態なんで、今ここでタスクフォースという形に活動を展開してやろうとしたことというのは、ひたすらエンゲージメントだったわけですね。

なので、ここで活発化チーム、今、加藤さんの御提案で、確かにそんなに法人をつくるのにお金が集められるか分からないようなお金が集まらなくたって活動はキープできるよねというのはそのとおりで、そういうふうな活動のモメンタムがあるというのは非常に重要なんですけども、一方で、NRIを構成する上でのエンゲージメントというのか、ほかの団体の巻き込みというのはぜひとも必要で、それこそが広げる場合にやりたいことなんじゃないのかなと。そこをどうやって実現するのかというのを考えたいなというふうに思うんです。

なので、そこがキーポイントに今後NRIを考えるという上ではなるんじゃないのかなというふうに思うので、そういった意味でいうと、加藤さんの書かれたプラン、プラスアルファ何かが多分私は欲しいと思っているんだらうなと思いつつ、ちょっと今、言葉を、お話をしながら考えていたところですね。

タスクフォースというか、名前も出していただいているんで、これ、ぜひとも加藤さん、あと、立石さん、JAIPAさんとしてタスクフォースのほうの構成員でもあるので、タスクフォース側の話で、こういう話をちょっと展開していかなきゃいけないというふうなことだと思うので、それはタスクフォースの文脈でまたちょっとお願いして、相談しながら進めなきゃいけないのかなというふうに思っています。

すいません、直接にお答えしてないですけども、以上です。

【加藤】 ありがとうございます。1点、タスクフォースは会員組織を集めるまで消えちゃ駄目という、この堀田さんのスペシフィックなコメントについては、どう考えたらいいんでしょうかね。

【前村】 そういう話もあったぐらいなんだけど、どうしようかって皆さんに聞いてみるというのをやらなきゃいけないかもしれないです。

【加藤】 今のところ、タスクフォース自身は次こういう会合をやろうという動きがないので、これ、別にタスクフォースが解消するとか、そういうことではなくて、こういう活発化チームや、それまでのいろんな活動と一緒にあって、その中で……。

【前村】 新しいシナリオでNRIの基盤をつくるという上で、タスクフォースとして何ができるのか、それが例えばエンゲージメントで人を集めてくるということなのであれば、そういうことをプレIGF2023ではできなかったけど、今から、今のタイミングでできるかみたいなことは議論の価値があると思うんです。

【加藤】そうですね。当然、こういう動きになってきたら、また一度タスクフォースの方々にも、どういう形か分かりませんが、個別にでもお話ししたほうがいいと思いますし。

【前村】 はい。そうだと思います。

【加藤】 同じようにタスクフォースということが出てきているので、ほか、JAIPAさん。

【立石】 私も特に、堀田さんとか、それから今、前村さんがお話ししていただいたことに関しては、それでいいと思います。ちょっとさっき加藤さんおっしゃった、やるまでタスクフォースは残しておくべきみたいな話とか、いずれにしても、それは自然とそうならざるを得ないかなと思いますので、そこまでは引っ張るといっても、特に何か動かしているわけでもないので、それは最終なのか、何回かやってからかどうかわかりませんが、またそこをしっかりとちゃんと引き継ぐという形でいいのかなというふうに私も思います。今のところ、私そんな感じです。

【加藤】 ありがとうございます。そういう意味で、この活発化チームも名前のとおり、2023年であれ終わったのというのがはっきり分かっているわけじゃないので、みんながもう一度ここで一緒になって、新しい組織として法人化もして動き出すということかなというふうに思います。タスクフォースの構成メンバーの多くが活発化チームにも参加していますし、過去やってきた方は大体重複していますよね。そういう意味で、ここでみんなが一緒になって、もう少し新しい形でやるということかなというのが、私、タスクフォースを経験して感じたことです。

前村さんも言われて、堀田さんもすごく強く御指摘だった、もう一度マルチステークホルダーを本当に声かけるようにという、そこがやっぱりこれからキーになると思うんです。法人化して、形だけ何か変えてNRIですと言っても、実際はそれが日本の本当にマルチステークホルダーを代表していないのであれば、あまり意味がないので、それをステップとしてどうやって広い層に働きかけていけるかというのがやっぱり継続して課題になっていると思います。

皆さん個々のところについてはいろいろな経験あると思いますが、私個人的には、京都で消費者団体の方とか声かけていただいて、実はこの活動、結構興味を持っていましたという方がいらしたりしていたので、この機会に、今までも何度もそういう議論はあるんですけど、もう一度参加していただく、敷居をなるべく低くして参加していただける場として考えていくべきなんじゃないかなというふうに思います。

そのきっかけとして、もう一度法人化して新しい団体になった場合に、単に毎月こういういろいろな事務的な会合だけではなくて、いろんな 이슈を一緒に議論する、中身についても議論

する、インターネットガバナンスを広く議論する、そういう場をつくることによって、もう少しいろんな方が入ってこれるのかなど。

堀田さんが言われた、やっぱりテックコミュニティーがこの日本での活動を牽引してこられたわけですが、それ以外の方が、IGFということになると、いろいろ上位レイヤーの制度議論、そういう方々が入っているわけですが、もう一度そういう方に声をかけていくということが必要になるのかなというふうに思います。

ということで、堀田さん、大体堀田さんが言われたことへの回答、今の皆さんの（ご発言）で答えになっていますでしょうか。クリアにこういうふうに行けるといっていいということではないですけども、多分【聴取不能】共通なんじゃないかというふうに思うんです。

【堀田】 問題意識は共有いただいたというふうに感じています。

【加藤】 ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

【山崎】 立石さんと前村さんが手を挙げています。

【加藤】 その順番でよろしいですか。まず立石さんからで。

【立石】 アウトリーチどうするかという話は、それはそれとしてやらなきゃいけないと思っていますということと、プレイベントとして10月の7日だったかに（開催）させていただいたSIG、スクール・オブ・インターネットガバナンスの話をしていたときに、ICANNでもIGFでも有名なアプリさんとかウルフ GANGさんといろいろお話をしている中で、マルチステークホルダーモデルをどう考えるかという話がやっぱりあったんです。

あと、ほか私が別のところで教えている子たちからも、マルチステークホルダーモデルそのものに対する考えがどうなんですかって聞かれたりとか、あるいは既にその研究というぐらいまでやっている子たちがいるので、一番日本で弱いと言われている市民社会、消費者団体を中心に声をかけるということとは別に、ちょっと1回、マルチステークホルダーモデルって何なんですかみたいなのを考えなきゃいけない。

具体的にどうするというのはなくて、ただの思いつきなので申し訳ないんですけども、何かそういうこともやっていかなきゃいけないのではないかなど。単なる意見というか、私の妄想レベルなんですけども、そこをやらないと、規定の概念、私なんかは特に凝り固まっている、自分自身もちょっと反省でもあるんですけど、もうちょっと柔軟にというか、幅広にほかの国のモデル



なんかも本当は考えてやっていかなきゃいけないのかなというふうな感じがしています。単なるコメントですけど、以上です。ありがとうございました。

【加藤】 ありがとうございます。前村さん、お願いいたします。

【前村】 ありがとうございます。今、立石さんのコメントを受けるとすると、マルチステークホルダーモデルというのは前もちょっとそういうふうなことを口走ったこと、この場でありましたが、本当は何なんだっけというのを、何となくコンテキストに似つかわしい言葉だから使うのではなく、何が実現できればマルチステークホルダーモデルと言えるのだろうかというのは、いくらでも考える価値があるんだと思います。

加藤さんのこのシナリオ、1から8までというのを含めて少し口頭で議論させていただいたことがあって、その節はありがとうございました。そのときにもちょっと申し上げたんですけど、例えば今、CFIECさんでIGFの内容をまとめるというふうな、これはとても貴重なというのか、意義の高い活動だと思うんですけども、それも含めて、マルチステークホルダーというぐらいなんで、ステークホルダーセグメントで、例えば勉強会を回り持ちするというのか、例えば、テクニカルコミュニティからこういうふうな議論をやりたいって言って、そこはオーガナイザーになって議論をする、そのときにはプライベートセクターからやるとかというふうな形で、ちょっとステークホルダーを意識したような活動の展開ができると、そういうふうな醸成にもなるんじゃないのか。マルチステークホルダーアプローチをどうやっていけばいいのか。

そうやって輪番で回すこと自体がとても上手にマルチステークホルダーモデルを体現できているというふうにも思うんで、そういう責任持って1回、私たちがオーガナイズしますみたいなことを言ってくださるとか、それは、今のいわゆるIGFのステークホルダーセグメントに沿わなくてもいいのかもしれないんですけども、いろんな方々が出てきて、それぞれの考えでセッションをやるみたいなことが輪番でやれていくみたいなことで、これ、結構ちゃんとさぼらないで真面目にやったとすると、プライベートセクターはそういうふうなメンタリティーで物を考えるんだな、テクニカルコミュニティってそういうふうなことを大事にしているんだなと思うんです。そういうことが際立っていくんじゃないのかなと思うんですよね。

そういうことは、この加藤さんのアイデアを拝見しながら、自分の頭の中でいろいろ考えると、そういうふうな絵が出てきたので、そういったことも含めて活動のデザインができていくといいかなというふうに思っているところです。1つの私の私案というのか、アイデアとして申し上げました。以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

いかがでしょうか、皆さん。私、個人的には今の前村さんの御意見大変いいと思うんですけども、そういうふうに今テックコミュニティーで実はこういうことを考えているとはっきりみんなに問いかけていただくということは、逆に言うと、自分たちのいろんな意見が聞いてもらえる場だということになっていくのかなというふうにも思いますね。

【前村】 そうですね。

【加藤】 そういう意味では、いろんな人が入ってきやすくなるのかなという気がしました。

【前村】 それをやると、テクニカルコミュニティーで何か議論する、例えば、今RIR（地域インターネットレジストリ）がいろいろと攻撃されているという問題があって、取り組んでいるところなんですけども、そういうのに対してもテクニカルコミュニティーの中で議論をするときに、いや、実は日本のIGFの会合で話したんだけど、ほかのコミュニティからこういうふうなインプットあってというふうなことがまたフィードバックできるということもあって、案外いろんなセグメントというのが、ステークホルダーの皆さんが同じようにそういうふうなことを伝えるんじゃないのかなというふうに思いました。その辺は割と親和性があるんじゃないのかなと思っています。

【加藤】 そうですね。ありがとうございます。

西潟さん、手を挙げていただいています、いかがでしょうか。

【西潟】 すいません、ありがとうございます。お疲れさまです。今のマルチステークホルダーの議論もとても面白い意義のある議論なんですけど、その前の堀田さんからのコメントについてです。NRIとしてどこまでやったのかという反省と、それから総務省として、今回のこの活発化チームの今後について思うところを述べさせていただくと、今ちょうど画面のここに7.って書いてある項目、これを先にやってほしいんですよ、私からすると。やるべきだとも思うんです。

要するに、日本の中でいろんな人がいろんなことを議論する活発なアクティブな状況があるというのが1つの大事なことだと思うんですけども、少なくともIGFという切り口でここまでやってきて、そのレガシーとして何かを残そうという中で言えば、私からすれば一番大事なことは、NRIとしてどうするんだということだと思うんですよ。

その中で、その先なのか、その中でなのかは、運営の仕方次第だと思うんで、関係する人がみんな決めていいと思うんですけども、その中で6.の項目の話が次に出て来るべきだと思っていて、今いろいろありますインターネットガバナンスの活動とか、狭義のIGF活動に限らず、限らずという以上は、その後という言い方になるのかどうか分からないんですけども、まず、NRIをどうす

るんだという話の中で、NRIの仕事は決して楽な仕事じゃないと思っていて、そういう意味では法人化というのは1つのゴールだし、加藤さんからも御発言ありましたけど、法人化のメリットとしてイベントか何かをされるときの総務大臣の後援が取りやすくなるのは事実だし、申請いただければすぐやりますというのは、本当に法人化したらどうするんだとか、その部分をこの場で全員でやるのがいいのか分からないんですけどね。どういうふうにやったらいいんですかねというのは逆に投げかけでもある。総務省としての問題意識はここなんです、正直。

というのは、それはIGFのややこしい立てつけの中で、根っこは国連なわけで、国際機関の根っここの加盟国というのは政府なんですよ。なので、日本政府がないわけにいかないわけですよ。その中で、IGFというフォーラムについては、定義の中身はさて置きとして、マルチステークホルダーでみんなで集まって議論するフォーラムをつくるということになっているわけです。

なんだけども、IGFの事務局はジュネーブにあって、その上は、国連のDESA（経済社会局）でしょう。そういう意味では、政府からすると、やっぱりこの立てつけは気になる。

他方で、この立てつけ以外の話というのは、もっとここでみんなでそれこそマルチステークホルダーの定義から始まって、大いに議論していただいたらいいし、私も気づいたことがあれば発言させていただくかもしれないけど、それはあくまで意見のレベルの話なんだけども、そのレベルとは違って、このNRIの話というのはもう少しスピード感持って議論していただきたい。でないと、それこそ活発化チームのホームページに上村先生が書かれたレポートが上がっていますよね、振り返りの反省っておっしゃっているときもありましたけど、あそこの部分は何ら解決していないんですよ。

なので、そこの部分については問題意識を持って、それこそコメントにもありましたけど、誰が何ができるんだという問題もある中で、そこで、私いまだに略語のアルファベットを覚え切れていないんですけど、国際経済連携推進センターの名前も出てきている中で、どういうふうにやっていくんだというようなところというのは総務省も非常に関心を持って拝見していて、できることがあるなら支援をしたいと思っているんだけども、それはいわゆる法人化の前の段階から、お金とかじゃなくてソフトの支援なんだけども、そういう議論と、それから今、立石さんとか前村さんおっしゃったマルチステークホルダーの議論も大事なんだけども、それと一緒にされると多分物事進まなくなっちゃう気がして、そこは問題意識を持って聞いていました。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。NRIに関しては先ほど河内さんからも話があったとおり、今、河内さん、山崎さん、それと私の3人が今年はNRIのいろんな会議に参加してきていますけれども、

そこを過去、上村先生が一度登録していただいたままで、リエゾンとしてきちっとどうするかという、まずリエゾンをどうするか。それから、NRI自身として今後のやり取りをどうしていくかという、もう少し、今の西潟課長のお話は深いと思ひまして、そうするためにもこういう組織を明確にもう一度再定義するという事かなというふうに私は思っています。

ほか御意見ございますでしょうか。この件について何でも結構です。この8項目を今後どうしていかうかということですのでけれども、いかがでしょうか。本田さん、お願いします。

【本田】 ちょっと上に戻っていただいて、高松さんのコメントも拝見したんですけれども、このボランティアなというところで、そのもう一つ上かな、ボランティアな活動に限界を感じ続けている中というところは、確かにそのところがちょっと引かかった気はしたんです。法人はつくるけど、今までどおりボランティアで、ボランティアというのがどういう意味で使われているのか分からないんですけれども、要はいわゆる手弁当で、要は費用弁償はなくやりますという意味なのか、自主的な参加を促しますということなのか、ちょっと分からないんですけれども、ただ、今までのまをそのまま引き続いてやっていっただけでは、確かにマルチステークホルダーということは別としても、このメンバーの数というか、関与する人の数、組織の数というのは増えていかないのかなという気がしたんです。

だから、そこで資金面で、資金をどうのというんじゃないんですけれども、1つの接点として、こういうものに関与してくださいという部分で、それは資金というか、何らかの形での出資というか、そういうもの、もしくは会費というもの、そういうものはあり得るのかなと思っています。

そのところがはっきりしないまま、要は法人化したけど、費用は最小限でというのと、確かに聞こえはいいのかもしれないんだけど、逆に言うと必要な経費とかはどう算段するんだということ、すごく不安というか、疑問が残ります。そして、継続的な発展性という面からも、もうちょっとそこは考え直す必要があるんじゃないかというところがコメントです。

【加藤】 ありがとうございます。その辺いかがでしょうか。最初の論点、御指摘いただいた高松さんから何かコメントございますか。いっぱいコメント書いていただいているので、もしよろしければ一度この辺で御発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

【高松】 コメントについてなんですけど、すいません、広くいろんなところにコメントしてしまつて。今、課題意識みたいところは今までのところで皆さんから上がっている部分である程度網羅はされていると思います。

私が気になったのは、どうしても細かい話になりがちなんですけど、ボランティアで参加するということで、今後議論をしていく中で、例えば、今後NRIはどうしようとか、そういったところのたたき台となる資料みたいなのを誰が作るのか。そういったところのボランティアな持ち出しみたいな部分が特に気になっているところです。

NRIのメインというよりは、下部みたいなところでいろいろ 이슈に基づいた議論をサブグループみたいな形でできたらいいなと、そのあたりは手を挙げてやろうという人は出てくると思うんですけど、NRI全体のとか、今後の方針をととか、そういったところを考えると、例えば専属の事務局の人がそのベースを今までの議論を聞いてつくるのか、あとは、そういった仕組みができるといいなと思って、結構書いた部分は多くあります。

その事務局をどうするかというのを、そこをボランティアに任せるとするのはちょっと重荷が大き過ぎるのかなというふうに思ったので、そういうのこそNRI全体にとって必要なものになると思うので、その真ん中、会員なのか、スポンサーを集めるのか、分からないですけど、そういった仕組みで賄えるようなのができると、全体としてもうまく設計もできて、運用もできてというふうになるのかなと思いました。

いろいろ書いているんですけど、一番伝えたかった部分はそういうところかなという認識です。

**【加藤】** ありがとうございます。前村さん、お願いいたします。

**【前村】** まず、この加藤さんのシナリオで想定されていることの私の理解は、まず、法人、すごく小さな社団でいいので、法人にするというのは重要で、それは、法人することによって、例えば政府から寄附を受けるなどということができるようになるということで、それ以外は、社団法人というのはいくら小さくてもつくれますので、例えば我が家にも、私じゃないですけども、家人がつくった社団とかあるわけなんです。なので、そういうことはし小さな規模でもできるから社団にするということが重要だと。

社団の運営費用というのは、だから、（【チャットでのコメントより】政府は寄附はしません。）すいません、失礼しました。はい。言葉遣いが間違っていました。

それで、ただ、運用費用というのは、この加藤さんシナリオの初期の想定としては、最小化されていて、とにかく手弁当でもみんな集まって行動していくんだということだというふうに認識しております。

なので、それを続けていくと、活動をするための基盤をつくるぐらい規模が大きくなっていて、お金も集まってくるようになるというのを、その活動を通じて見いだそうとしているという

ようなことだろうというふうに理解していますので、そういうふうな理解で読むと、そこまで立ち止まらずに読めるというふうに私は思っています。以上です。

【加藤】 ありがとうございます。この段階で私が言うのもあれですけど、今、前村さんがきれいにまとめていただいたとおりで、決して、どう約束できるとか、確信持っているというのは言いにくいんですけども、まずこれでスタートしてみたら、きっと拡大して、高松さんがおっしゃっているような一定規模の資金を集めて、事務局をきちっと構成していけるんじゃないかという、私個人的なもくろみはありますけれども、その辺をもう少し議論させていただきながら、いずれはビジネスプランにさせていただくのかなというふうには思っています。

西潟さん、手を挙げていただいたんで、よろしくお願いします。

【西潟】 すいません、ありがとうございます。高松さんがおっしゃったことに対して、加藤さんとかがどうお考えになっているのか、一度お話を確認させていただきたい。

具体的に言うと、高松さん、前から多分おっしゃっていただいていると思うんだけど、一番の問題意識は、例えば高松さんならJPRSの職員としての高松さん、それ以外の時間は高松さんの差配でどう時間を使うか考える権利があるよねと。逆の言い方をすると、この活動に特に事務局とか、NRIなんかまさにそうなんだけれども、これに参加することを業務として定義できる人がどれだけいるんだという話だと思うんですね。

その意味で、加藤さん、これまで活発化チームのチェアも含めて、すごいたくさん、歴史的にはもっとこんな、私なんかの経験で言うのは失礼なぐらい貢献もされてきているし、河内さんのMAGの委員になられてから連携センターのほうも行かれて、そうかもしれないし、ひょっとしたら上村さんも連携センターになってとか、連携センターのところも我々もまだよく分かっていないんだけども、どれぐらい能力としてリソース出せるのか、それはリソースと申し上げた趣旨は、業務としてこれをやることを定義できる人間をどれぐらい出せるかということだと思うんですよ。

その意味において、総務省はこれができるんです、役人なので。IGFの中に総務省は関連を持っているので、総務省の中で、例えばデータ通信課であれば、NRIの何分の1かは業務として定義できる。マルチステークホルダーなので全部は無理でしょうけど。だからこそ、私だってIGFのAIの議論(PNAI)に関わらせてもらったわけですし、せっかくの京都会合だから少し踏ん張った部分はあるけれども、そこまでやらないにしても、例えば活発化チームに今日も総務省のデータ通信課が何人か参加していますけども、これ業務で定義しているんですよ。総務省はボランティアじゃない。

だから、そういった意味で、逆に言うと、申し訳ないけど、ボランティアだったら逆に役人はやらないです。それこそかつての高村さんとかインターネットが大好きなバイネームで挙げられるような人は別かもしれないけども、そうじゃない限り、やっぱり役人は業務で定義したからこそ、ここまでやっているし、やる以上は真摯に、できる限り全部やりますけども、その部分は約束しますけども、やっぱり業務で定義できるかなんですよね。

だから、そういった意味で、これ役所だけじゃないと思うんだけども、その部分をどこまでボランティアで、まして、そのボランティアの人の爆発的な頑張りというのが大体、後から振り返ってみると成功のエピソードだったというパターンがたくさんあるのは承知しているんだけども、他方で、最初からそれに期待するとか当てにするというのが合っているかということ、これは個人的に極めてダウトで、そういった意味で、その辺のところを今回御提案8項目の形でいただいた加藤さんが特にどういうふうに御覧になって、どうお考えになったものをこの文章の中にどう入れ込まれているのか、あるいはおられないのかみたいなところを教えていただけるとありがたいと思います。

**【加藤】** まず、私から答えたほうがよろしいですね。私自身は実は8月から、河内さんがいらっしゃるCFIEC（国際経済連携推進センター）という団体の正式の辞令をいただいて、この団体でデジタル社会を研究するチームというをつくるという業務をいただいて、私自身はそれはフルタイムじゃなくてパートタイムでお引き受けしているんですけども、今、この数か月、そういうチームをつくって、3つほどの研究会を立ち上げるということをやっています。

**【聴取不能】** このインターネットガバナンスに関する問題を正面から捉えるというふうにテーマとして決めていまして、その範囲で私自身はかなりいろんなリソースをかけることを決める立場にあると思っています。

その中で、今回の京都会議をCFIECの職員数人と一緒に参加して、これは業務として参加して、費用も全部持って参加して、京都の会議の報告書を、かなりの量の報告書を今作成中です。3月ぐらいには、出版するかどうかは別にして、かなりまとまった報告書を作りたいと思っています。

この活動自身は、IGFの報告だけではなくて、インターネットガバナンスの在り方といいますか、そういうことを議論することが大きなテーマでして、お名前出していいと思いますけれども、上村先生がそのチームの主査として今活動していただいている、そういう中で、今回IGFに関連して活動するというのもカバーできると思います。

そういう意味で、お答えになっているかどうかあれですけども、業務の一環としてこういうことをサポートさせていただく人間、複数の人間がいるというのが今の状態だと思います。

西潟さん、いかがでしょうか。それでお答えになりますでしょうか。それがどれぐらいの量でどれだけのことができるかというのは、甚だ微力なので、私含めて十分なコミットの内容を果たせるかどうかは別にして、そういうことを業務としてやるような……。

【西潟】 加藤さん、よろしいですか。そういう意味では、逆の言い方をすると、失礼な言い方になっていると申し訳ないので、先に謝っておきますけど、CFIECさんに組織として期待できるんですか。それとも、やっぱりそこは加藤さんという、今お話いただいたとおり、CFIECさんとの間で業務として御契約されている中の業務の中に、例えば、NRIのコーディネーターをすることは含まれるんですか、含まれないんですかという、個人の感覚だと、今のお話聞くと、ダウトなんですけど、それでも加藤さんのCFIECとしてのネクサスは強くなるんですけども、それでも加藤さんはボランティアなんですかみたいところが私まだ分かっていないんですけど、その辺いかがですか。個人のあれもあるので差し障りない範囲で結構ですけど。

【加藤】 そこは、今御質問の点は機関決定していないので、こうということがちょっと断定的に言えません。ただ、CFIEC自身がNRIになるということは、これは明確に申し上げておきますが、それはいいです。というより、IGFというものの自身がCFIECという団体が【聴取不能】というのとは違うと思うんです。

【西潟】 それは分かっています。NRIはコーディネーターでできているものだと私も認識していて、他方で、今、事務局の話がされているわけですよ、私もそこに関心を持って参加していますが、その事務局的な機能というのはCFIECのリソースから出せるんですかということをお聞きしているふうに受け止めていただきたい。

【加藤】 全部をカバーできるか分かりませんが、事務局の機能は【聴取不能】。

【西潟】 ありがとうございます。

【加藤】 前村さん、手を挙げていただいています、よろしくお願いします。

【前村】 西潟さんのおっしゃり方は確かに気になるころではあって、タスクフォースで何か目指していたものを、私自身、私個人かもしれないんですけど、目指していたものは、各企業に参加をお願いするとともに、各企業が、西潟さんがおっしゃったような業務として定義されるような活動としてIGFに関与するということを目指していたんで、西潟さんがおっしゃりたいことはとてもよく分かったんですよ。

何か個人のボランティアでやっている、業務の関連なんだけど、個人のリソースで上手にやるという方もいらっしゃるんですけども、そういう方だけではないので、業務として、IGFの活動、



国内IGF活動に関与する方というのを増やさなきゃいけないというのは本当にそう思うんです。だから、そういうふうな企業をエンゲージしたいなというふうに思っているので、そこまで行けるかどうかというのはまたやってみないと分からないところではあるんですけど、そこは共感したところでありました。以上です。

【加藤】 そういう意味では、JPNICさん、前村さんが今御発言をされたからあれですけども、JPNICさん、例えば、山崎さんも随分御活躍いただいているわけですが、JPNICさんにはそういう機能がございますよね。

【前村】 我々はこれは業務でやっています。ボランティアではありません。業務でやっていますので、だから、山崎もそれ大変だなと思う仕事を何かどうにかこうにかやっているというのは、業務だからやっているという。

【加藤】 そういうこと。そういう意味で言うと、JAIPAさんとかJPRSさんもそうかなという気もしますが、いかがでしょうかね。

【堀田】 JPRSの堀田ですけど、我々の業務時間を使っていることは確かなんですけども、会社のためにやっているかという、そうではなくて、例えば私とか高松の発言は会社を代表していないですし、高松が何か一生懸命、将来図を書いたりしていますけど、それは会社のためにやっているわけでもなく、そういう意味では、気持ち的にはボランティアですよ。それがあって多分、テックコミュニティーの意見を代表できるようにしゃべっているわけでもなく、時折自分がユーザーとしてしゃべったりとか、そういうことになってしまう。これは日本のIGFに出ている人はそういう人が多いのかもしれないね。自分のコミュニティを代表してしゃべるよりも、自分を代表してしゃべっているような気がするんですけど。

ということなので、業務時間は確かに使っているけど、会社とか組織を代表しているかという、そうではないというふうに思ってもらうのが正しいかなというふうに思います。

【加藤】 西潟課長、今、堀田さん言われたところ、まさに重要な点だと思うんですが、業務でというのは、ある企業なり団体があって、その人たちの意見をあそこに行って反映させてこいということを業務としているということなのか、そこでいろんな活動をするのを会社の業務として時間を使っている、その分の給料も払っているということなのか、どちらなのでしょう。

【西潟】 私の問題意識はそこじゃなくて、堀田さんのおっしゃることはそのとおりだと思うんだけど、社を代表するかどうかは、それこそ私なんかしょせん課長だし、代表できる部分とできない部分あるわけですよ。だから、そういうのは多分それぞれの皆さんに、ここに今日お越しい

ただいている皆さんそれぞれあると思うんですよね。もともとフリーランスだし、技術力に対しては責任を持つけども、それ以外は（責任を持たない）という方もいらっしゃるかもしれないし、私なんか役所の立場で出させてもらっていますので、時々個人の意見を（発言する）というときは断るようにしていますけど、そういうのがあると思うんです。

むしろ私は、高松さんがおっしゃっていることをよりどころとして申し上げると、業務時間を使うかどうか。コロナの後で時間の使い方がこれだけフレキシブルになった今となつては、まさに夕方の6時というものをどう捉えるかというのは各社によって多分コロナ前に比べたら扱いも変わってきているでしょう。そんなこと言えば、役所の管理職なんていうのは裁量労働制でしかなくて、24時間いつでも話なわけで。

だから、そういった意味で、むしろ私が業務として定義するとかそういうところでこだわっているのは、例えば、言ったことには責任を負うとか、やると言ったらちゃんとやる、やれなくなっても余計に時間食ってでもそれやるんだけども、そこで例えば会社からね、おまえ1日3時間ぐらいならいいと思っていたけど、何で3日間も全部これにかかり切りなんだと言われたら、いや、これ業務ですからって言い返せない。そうなるとその人かわいそうなわけですよ。何かが上がりかかっている、ぽしゃんみたいな話のときと違って、今までも多分そういうことの積み重ねなんだと思うんですよ。

だから、そういった意味では当然、周囲の状況とかの関係で、当時やろうと思っていたことでできなかったことというのはいろいろあると思うんですけど、にしても、そのときのできたできないとかに限らない、やるやらないに近いと思うんだけど、そのときに、例えばこれは面倒くさい話になっちゃったけど、ある程度の結論に行くところまではやり遂げなきゃいけない、そういった話というのは、民間でもある程度はそうだと思うんですよ、そこは業務として認識されていないと困るのではないか。役所はその辺は全部ルールベースなんであれだけれど、そこまでの全部の組織がそうでないことぐらい百も承知なんだけれども、ある程度それを逆に言うと、民間のプライベートセクターのフレキシビリティがあってこそだと思いますけども、他方で、そのフレキシビリティを言い訳に例えば何かをやろうとしたけど、何も手つけられなかったみたいな話になるのは、少なくとも法人化とかしていく以上は避けてもらわなきゃ困るんじゃないですかというのが問題提起。

逆の言い方をすると、そこまで1回詰めてみて、やっぱそれは無理だということになったときは100%ボランティアベースで行きましょうという話だと思うんです。ここを曖昧にしちゃいけないと思うんですよね。役所はどっちみち関わります。これは役所の作法なので、フレキシビリティ

一なる世界は役所にはないんで、役所以外のところに、しかも100%ボランティアですというふうに最初から決めてもらわないと、多分入ってくる人もこんがらがると思うんですよね。

他方で、100%ボランティアというのは、私のさっき申し上げた問題意識からすると、NRIはそれで務まるんですかというところは一度詰めておきたい。詰めるというのは中身を詰めるという意味です。それはやっぱりIGFのジュネーブとの関係で持つんですか、あるいは、持つんですかというのは変な言い方をするつもり全くなくて、よその国で持っているんだったら、そういうやり方をしましょうよというのはこの前、私、問題提起させていただいた話で、やり方はいろいろあるのかもしれませんが。私もそこまで調査が及んでいないし、知識もないんだけど、もっと言葉を選ばずに言うけど、いい意味でいいかげんにやっけてうまく回っているところだってあるんだと思うんですよね、ヨーロッパにしたって、ほかの国にしたって。

だから、そういった意味で、ボランティアでうまくやっけて、そこに寄附制度とかいろいろ別の大きな話も関係するかもしれないんだけど、キャッシュがないんだという話が問題なのかもしれないですし、そういうところをもう少し詰めていかないといけないのかなというのは思います。ありがとうございます。

【加藤】 いかがでしょうか。今、非常に重要な本質的な問題ですが、さっきからのコミットということですので、JAIPAさん、いかがですか。今までそういう意味じゃ、かなりボランティア的なこともやっけていただいたんですが、立石さん、何かコメントがあれば。

【立石】 西潟さんがおっしゃっていることも、私もほぼほぼ同感なんですけど、それを今すぐ答え出せという、ちょっと厳しいかなという気がするんですよね。ぶっちゃけ、やってみないと分からないかなというのと、持つのかどうかという話というか、どこまで、最後出続けるのかという話だろうと思うんですけども、それは関わってきた人間が最終やるか、やらないかという判断でしかなくて、それは多分、究極言うと、きっと法人化していても同じ話なので、金があるからできるかという話じゃなくて、多分お金があってもできないときはできなかったりすると思いますから、将来のことは、もちろん総務省さん的にはそこはやっぱり担保しろよという話なんで、するのか、しないのかというと、単独ではできないですけども、少なくともその次の社団化するときにメンバーで担保すると言い切るしかないかなという気がするんです。

それが、過去ここまでやってきたNRIとして、国連から見たときのNRIとして、どこまで、逆に言うと、国連はそこまで負担かけるつもりがあるんですかと問い返すしかないかなという気もしたりもするし、その辺、日本の関わっているメンバーとして、どこまでやったらよしとするかということかなという気がするんです。

すいません、僕も考えがまとまっていないので、割と今思いつきでお話はしているんですけど、そんなに難しい問題でないというふうにも思っています。

【加藤】 前村さん、お願いします。

【前村】 西潟さんの御質問に対して、私の理解を言うと、そんなコミットメントはIGF事務局は求めているだろうなというふうに思っているんですよ。それで、何ならという言い方で言うと、Japan IGFというのがNRIに登録されていて、これがディスクオリファイされたという話も聞かないし、恐らくはJapan IGFはNRIであり続けているが、出てこないけどねぐらいに思っているんだと思うんです。

何が言いたいかというと、ボランティアベースでやれることをやっていって、それをNRIとして尊重したいというふうに思っているんだろうなと思います。

先ほど業務として定義されているとか、業務として定義された方々が増えていくといいなというふうに申し上げたのは、事務を回すのも、コーディネーターを1人ちゃんとやるのも大変だと思うので、それは専従の人が欲しいと思うぐらい、これは1年前の議論でそういうふうなことを申し上げたし、実際うちは前に奥谷がやっていましたが、今は部外者なので、奥谷さんと言ったほうがいいけど、奥谷さんがやってくれたけど、いや、相当頑張ってやったけど、まだ仕事あるみたいな状態で。（その後）上村先生がやっていただいていたけども、とても全部はできないと言って、御家庭の事情もあったけど、お辞めになったみたいなのところがある中で、どこまでやるか、やれたところまで、そこまでやれたことにするみたいなのところはあるんだと思います。

それよりも、業務で関わったほうがいいということを私が本当に求めているのは、それくらい時間を会社からあてがってもらった方々がサブスタンスを回して、議論が充実して、それでNRIとしてのIGFのモメンタムが増大するということがぜひとも必要だと思うから、そういう【聴取不能】というふうなことなんで、私が専従というふうなことを言うのは、それくらいリソースが欲しいんだよというようなことを申し上げたというふうなことでありました。

西潟さんに補足というのか、ちょっとクラリフィケーションとして申し上げます。以上です。

【加藤】 すいません、西潟さん、お願いします。

【西潟】 すいません、立石さん、率直なところもいただいてありがとうございます。私もね、そういう意味では、一応誤解のないようにということで申し上げるけど、庭先を完璧にきれいになりたいとか、そういうあれではないんだけど、他方で、今いみじくも前村さんがおっしゃっていただいたんでね、上村さん今日いらっしゃらないんであればちょっと申し訳ないんだけど、

ああいう形のこと許される組織なのかどうかというところの認識の共有があるならば、私は別にそれでもいいと思う部分はあります。

他方で、やっぱり、いや、結果的にですよ、ホストの国のNRIがこういう状況のまま、うまく乗り切ったのは皆さんの個人のお力もあったと思うんだけど、その中で、率直な話、いやいや、これでいいんですというのがあるのかもしれない。インターネットの世界は何でもありという部分、変な意味じゃなくてですよ、フレキシブルでかつクリエイティブでという意味で申し上げていますが、ということであれば、そういうコンセンサスがここの場で得られるのであれば、私もそこにマルチステークホルダーの一翼として総務省として関わるというのは全然違和感はないんだけど、その部分の認識が全然共有されていない気がしていて、とても気になっています。別に高松さんを責めるとか、どうこうするつもりはないんだけど、言葉を選ばずに言うと、一サラリーマン、プロサラリーマンとしてどうなんだという問題意識は、役人にそこは共通するところがあったんで、そこはいろいろと質問をさせていただいたというところだと思うんで、それが翻って、加藤さんがつくっていただいた8原則というのが、8項目の中にどう入っているのかというのが私は見いだせなかったんで、それをお聞きしたというところでもあります。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。ほか、いかがですか。

結論が出ないというか、何となくそこが曖昧なままで、西潟課長もまだ十分お考えがまとまらないかもしれませんが、僕も事実上、今、立石さんや前村さんもおっしゃったとおり、事実上IGF側として、例えば日本のNRIが何か曖昧だということについて、それでいいのかと言われると、彼らも、それは日本としてもっといろいろやってほしいと思うけれども、それが現状だということと来ていたと思います。

今年1年、京都（会議）を前にして、ぜひ日本からも参加してもらいたいということをいろいろ聞いて、それで我々いろいろ考えた上で、NRIということで、そのNRIのリエゾンということで、山崎さん、河内さん、それと私が、1人じゃ大変なので、3人でいろいろサポートし合いながら参加しようということにして、何とか参加させていただいて、十分かといえば、極めて不十分かもしれませんが、それなりにいろんな会議の中で答えたり、対応はしてきたということで、事実上、IGFの事務局担当アニャ（氏）とも何度もやり取りしていますけれども、彼女から見ると、日本のNRIはこの3人で今年やってきたというふうに見えていると思います。

ただ、形の上で、過去のこともあって上村先生の名前が残っていますので、それはきちっと上村さんの名前を出した時の団体の中で、今回のこの7つ目の項目はそういうのも裏に入っているわ

けですけれども、名前は一旦、次こういう体制の中で誰をリエゾンにしますということを出すということになると思います。それは形式的なリエゾンの問題で、もう少しNRIというのは大きな日本の活動をどうしていくか、その顔をどうするかという、そちらのほうが重要で、それこそが今回議論している法人として新しい組織を、NRIを支える組織として作りましたということになると思います。

それで少しお答えになりましたでしょうか。

【西潟】 すいません、私に。

【加藤】 そうです。西潟課長に対してですけれども、お答えしたつもりです。

【西潟】 お考えは分かります。お考えは分かりました。別にIGFにそれを裏取れとか、そういうこと言うつもりは全くないんですけど、その意味において、逆に言うと、今、加藤さんがおっしゃったことをこの活発化チームとしての決としてどう取ればいいのかしら。

逆に言うと、NRIのところ、その1個前の、1個前という言い方がいいのか分からないですけど、そこは法的にどういう整理なのか、よく分からないんですけど、今、登録されているそれこそコーディネーターとして上村先生の名前があるものについてのアップデートというのは多分、そこでやれば済む話で、活発化チームというこの会議体はその報告を受ける、大半の人はダブルで関わっていらっしゃるかもしれないけど、そういう形になるようなイメージで、そうすると一つきれいになりますよね。その後、そこから先は、さらに検討していくということかと思えます。

【加藤】 そういうことだと思います。NRIのリエゾンを示したときの、あれ12人ぐらいでしたかね、前村さん。

【前村】 Japan IGFのコーディネーショングループというところ。

【加藤】 ということですね。そうですね。そのメンバーで一度、こういう団体で今後引きとりますということを決めた上で、多くのメンバーがこれ重なっているんですけども、そして、今後もう一度正式にNRIリエゾンとしてこの人だということを使うというのが、手続的にはそれで十分なのかなというふうに思います。

高松さん、お願いします。

【高松】 今議論されている問題は、今、投影されている分が昔のあれですね。もともとのジャパンIGFの体制で、ICCJの考える会とジャパンIGFの運営委員会の皆さんが一緒になった団体だとい

う。上村さんがコンタクトポイントされていた頃で、今年のIGF2023京都については、そのところをどうするかという整理はちょっとついていないけれども、取りあえず活発化チームというのを作ってみて、そちらのほうで話を進めたいとなり、そこがNRIぽいので、そこでアサインとか、みんなでこの人たちにお任せしようというふうになった加藤さんと河内さんと山崎さんがコンタクトポイントとして参加されていたのかなというのが 【聴取不能】 IGF2023京都用の暫定措置みたいなのが今の体制 【聴取不能】 NRIのミーティングに参加されているのかなという認識でまず私はいましたというのが一つと、あと、今、議論されている内容でちょっと理解が追いついていないところがありまして、法人化のお話が案として出てきていて、そのいわゆる事務局というのは、この活発化チームだと、単にミーティングとか、そういったあたりの運営を回す人が事務局だというふうにお伺いしたように思うんですけど、今日話をしているNRIのコンタクトポイントとして出るとか、そういった人もその法人化の事務局が担うみたいな、そういったイメージでお話を皆さんされているという理解で合っていますでしょうか。

【加藤】 少なくとも加藤はそうじゃなくて、NRIのリエゾンとは別にこの事務局の人である必要はないと思います。

【高松】 ありがとうございます。

【加藤】 前村さん、手を挙げていただいています、お願いします。

【前村】 今の加藤さんのポイントで言うと、もともと1年前にやっていた組織化の議論だと、コーディネーターがヘビーなので、それは専任にしたほうがいいよねみたいな議論からアイデアが生まれてきていますよね。今回の加藤さんのシナリオは手弁当でやろうというふうなことが基調なので、それが専従の職員であるとか、ハードコアなアサインメントがある必要がそこまでないだろうというふうに一応理解しています。

【加藤】 ありがとうございます。そのとおりです、私の考えは。実際、海外のNRIのリエゾンというのも、いろんな団体の人が名前を、そういうハットをかぶって。

【前村】 そうですね。専従の方は多くはないような気がします。ただ、パワフルな人が多いので。

【加藤】 そうですね。

【前村】 それで、先ほどジャパンIGFのコーディネーショングループの名簿が出てきていますが、ちょっと私が考えていたのは、今NRIとして登記されているってほどハードではないんですけども、国連IGF事務局から認識されている日本のNRIというのは、ジャパンIGFであり、コーディネーショングループはこの人たちなんだというふうなことになっていますので、恐らくはそれを新

たなものに持っていくためには、新たなコーディネーショングループをつくって、その人たちに受け渡すみたいなアクションというのか、アクションって、別にジェスチャーだけではなくて、実質的にそういうふうな意向というのが必要だと思いますので、そういったところは現コーディネーショングループのメンバーという皆さんにちょっと伺っていく必要が、この準備の過程で必要なんじゃないかなというふうに思っていますので、それはちょっと私のほうで進めていこうかなと思っています。以上です。

【加藤】 ありがとうございます。それもそのとおりだと思います。新しい体制が決まった段階でそういうこと、必要なことをやりましょうということになったと思います。

【前村】 そうですね。今の活発化チームの活動というのはとりもなおさず、ジャパンIGFを拡張して盛り上げたいからみんなで話したいというのが肝なので、活発化チームに何かコントロールが移ったということではなくて、サブが回っていたのが活発化チームというチャンネルでというふうなことだと私は理解しているんですが、これはなかなか簡単には分かりやすいものではないと思いますので、そこら辺はちゃんとかちっと固めて整えていかなきゃいけないんだろうなというふうに思っています。

【加藤】 大分議論も煮詰まってきたと思いますが、西潟さん御指摘のとおり、NRIのリエゾンを含めて、コーディネーショングループ含めて、クリアにするというのは当然、加藤がこの8項目書いた7番目の項目の中に包含されていて、ぜひそれは第1ステップとしてやるというのはそのとおりだと思います。

そういうことを含めて、この8項目におおむね御賛同いただいたとして、これから次どうするかなんですけれども、何か皆さん御意見ありますでしょうか。こういうことで法人化するとしたら、ぜひ早くするためのいろんな準備をしていくべきですが、私が最初に申し上げさせていただくとしたら、この前提で何人かの、またはボランティアであれですけれども、法人化のための発起人になることを見据えながら議論を進めさせていただくグループをつくったらどうかなというふうに思っています。

【前村】 前村です。よろしいでしょうか。先ほど申し上げたことの繰り返しで、項目3のところに書いてあるところなんですけれども、IGCJ、Japan IGF、IGF-JapanはほぼほぼJapan IGFと思ってよくて、活発化チームがちょっとエクспанションがあるということなんですけれども、タスクフォースは割と明確にこれにWIDE ProjectとIAJapanを足したというふうなことで、ステークホルダーというのか、参加者が広がっているので、タスクフォースのほうで議論をもんでいくということは必要なので、やっていかなきゃいけないなという認識があります。



【加藤】 すいません、それはタスクフォースに？

【前村】 タスクフォースでこういう形で、恐らく規定はタスクフォースにこのシナリオを見せて、こういう感じで進めたいんだと言っていかなきゃいけないだろうなど、そういうことです。

【加藤】 それはそうですね。当然、タスクフォースが重要なメンバーになっていくので、むしろタスクフォースに牽引していただくことが必要なのです。

【前村】 とても強力なので。というのと、うちのJPNICの組織決定というのは割と半分半分、割と交わるところが多いので、中をもんでいくというのは既に始めているところではあるんです。

【加藤】 それを進めるに当たって、みんなばらばらに検討するんじゃなくて、いろんな方々が入った検討チームをつくったらどうかというのを僕が今申し上げたことなんですけど。

堀田さん、手を挙げていただいています、よろしくお願いします。

【堀田】 ありがとうございます。今言っている法人化というのは私も最初から賛成なんですけど、法人化するときの発起人というのは、個人ボランティアじゃなくて組織ですよ。

【加藤】 個人も組織も両方あると思います。

【堀田】 でも、組織が入っていないと、マルチステークホルダーにならないですよ。

【加藤】 それはそうですね。なるべく広いマルチステークホルダーがいいと思いますね。

【堀田】 そういう意味では、前村さんおっしゃったように、タスクフォースがやっぱり中心になって、組織を 発起人として集めていただくというのは大事というふうに思います。

【加藤】 そこのところが、これ、さらに僕は検討をすべきことだと思うんですが、法人化をするところの参加者と、発起人ということですね。それと、それでできた活動主体である【聴取不能】この会議が初めからイコールである必要はないと思うんです。

何を言っているかということ、去年の法人化のときにも、運営委員会と活動の主体と2つあるよなって議論をしたと思いますが、法人化のところはそれを支える仕組みですから、それが必ずしも初めからマルチステークホルダー、それは【聴取不能】することはできないので、限定的になると思うんですけれども、そこで法人化の発起人となる人、イコール初めから完璧なマルチステークホルダーというのを待ったら、恐らく今非常に難しい、法人化が今日の段階でできないんじゃない

ないかと思うんです。何かそこを一緒にしなくてもこの構想はできるんじゃないかというのが、私が今考えていることなんです。

例えば、今タスクフォースでは5つの団体があるわけですけども、その団体がそういう法人をつくって、そこで活動するのは、活発化チームでやっているように、皆さんが参加できる場を【聴取不能】受皿をつくるということで、活動は全員参加でマルチステークホルダー【聴取不能】という、そういう組織にするという立てつけですね。

【堀田】 理解しました。

【加藤】 それにはどういう形がベストかというのをもう少し議論する必要があるが、この8項目を実際インプリメントするというのは、しかもタイムリーにインプリメントするには、いろんなそういう手続的なことが必要なので、それをもう少し議論する場をつくっていただけないかなということなんですけどね。

ある程度、その次の段階の案がまとまったら、もう一度、活発化チームなり、タスクフォースなり、いろんなところに、これでいかがでしょうかというのを提案する。だから、今言ったようなことをタスクフォースの方々にも働きかけて、こういう形で次のステップをつくりませんかという話をさせていただく。それに検討に参加していただく方があれば、ぜひ参加していただきたいという、そういうアイデアです。

【堀田】 堀田です。構造上そういうことでもうまく行くだらうと加藤さんがおっしゃるのは分かったんですけど、結局、タスクフォースがいろんなところに手を伸ばしたという経験がないので、よく分からないですけど、下手すると、私の勝手な思いですけど、俳優がいまま一生懸命プロダクションをつくるというふうにならないかなという、そこは何の約束のないままプロダクションをつくらうとしているように思ってしまったというのは、さっきの質問というか、活発化チームが結局やらなきゃ駄目、最初からマルチステークホルダーでなきゃ駄目なんじゃないのと言った私の大元なんです。それはもしかしたら杞憂かもしれないですけど。

【加藤】 おっしゃるとおり、その点は注意しないといけないと思いますけれども、俳優のほうは、最低、今までタスクフォースがやってきたことと活発化チームがやっていることを両方合わせれば、それ【聴取不能】じゃないか。映画を作るプロダクションは最低限のプロダクションで、それは、そういうことをつくらうという発起人がいれば法人化できるという、これは前村さんがさっきから繰り返し言っていらっしゃいますけど、それを実際の活動は俳優たちがどんどんどんどん自主的にやるという、そういう場をつくるという、そういうイメージですね。

発起人が法人化をする部分というのも本当に必要最小限の法的なことだけですから、それは【聴取不能】ないと思うし、その部分が初めからマルチステークホルダーでないといけないということはないんじゃないか。もちろん、それにこしたことはないですけども、その部分が何か決定をするとか活動に影響するということは、極端に言えば、ないように、実際の活動は俳優たちがどんどん自由に活動できる、そういう場だけをつくるという、そういうイメージです。

山崎さん、お願いします。

【山崎】 西潟さんに質問なんですけれども、今、俳優とプロダクションという話が出ましたが、俳優の活動の中で一番さっさとやらなきゃいけないのがNRIコーディネーターというか、ほかのNRIとIGF事務局と協調して活動するというのが俳優の中で一番とっととやらなきゃいけないという理解で合っていますでしょうか。

【西潟】 ちょっと言葉の例えなんで、ずれていたら申し訳ないんだけど、NRIの話は多分俳優じゃなくて、その映画に絶対なきゃいけないシーンだと思いますね。

【山崎】 なるほど。どっちかというと背景的なものということ。

【西潟】 つまり、誰がやるかどうかは、それこそ加藤さんから今日お話しいただいたことを、私の理解そのまま別の言い方になっちゃうかもしれないけど、申し上げると、加藤さんがずっとやるかどうかは分からない、ボランティアでやるところも、基本としてやるんだけど、NRIはやらなきゃいけないことだと思うんですね。それは法人化するかどうかは、法人化したほうがスムーズかもしれないけど、そういう意味では、プロダクションの中として絶対プロダクションとして作ってもらわなきゃいけないもの、映画を作るのであれば、盛り上がりなのか、ビギニングなのか分からないけれども、絶対に入らなきゃいけない要素。

それ以上のところは、例えば今日のこの加藤さんの8項目だと、6番みたいなのところのシーン、どういうシーンがあって、そこのマストにつながるのか。マストがクライマックスなのか、エンディングなのか分からないけれども、エンディングでないのであれば、NRIの後、エンディングにつながる部分の映画の部分というのも、多分任意だし、参加はさせていただくとしても総務省なんかそんなことは何も申し上げるつもりもないです。というふうな理解でいます。

【山崎】 ありがとうございます。

【西潟】 そういう意味で、山崎さんにかぶせて言えば、景色だけじゃなくてね、そのシーンの中に当然俳優はいると思いますよ。そのNRIやるときに。今は山崎さん、加藤さん、河内さん、やってくださったというのがまさに俳優の3名だというふうに思っています。

【加藤】 ありがとうございます。この議論、非常に貴重な議論なのですが、皆さん予定の時間がもうそろそろ近づいているんですけれども、さっき申し上げたように、今私が申し上げたこの8項目を次のステップとしてもう少し実現するなら、こういう形がいいんじゃないかというのを提案申し上げたいと思うんですけれども、そこをこの活発化チームなり、タスクフォースなりに提案するまでのところに仕上げていく作業に参加していただける方、ボランティアの方はいらっしゃいますでしょうか。その話を至急続けていきたいと思います。私なりにたたき台的なものは作りつつありますので、それにいろいろ意見をいただくことはできますでしょうか。

【前村】 前村です。ぜひともタスクフォースのほうも、やらねばならぬのにできなかったようなところもありますので、ぜひともやらせていただければ。

【加藤】 そうですね。あと、お声がけしていい方、後でメールいただくなりでももちろん結構ですけれども、お声がけしてよろしければ、私が今もう少し思っているものを議論させていただけるとありがたいなというふうに思っています。

何か、このままとまりがないあれですけれども、いずれにしても今日のこの段階ではかなりNRIについての考えは整理されたのかなというふうに思いますけども、西潟課長的にはどうもそんなものかなというお気持ちはあるかもしれませんが、多分、議論もかなりされたと思いますし、次の段階としては、じゃ、8項目を実現するとしたらこういうふうになるんじゃないかという案を固めるということかなと思いますので、それをぜひ一緒に進めさせていただきたいと思います。

西潟さん、もう一度お願いします。

【西潟】 すいません、簡潔に。私の問題意識は、私の記憶が合っていればなんだけど、大分遡りますけど、京都の盛り上がりがあるんであれですけど、最初にチャングタイが日本に来たときに、この活発化チームの皆さんにもお会いいただきましたよね。そのときにチャングタイから、加藤さんだったのか、前村さんがおっしゃったのか、ちょっとそこは議事録見ないと覚えていないんだけど、「（日本のNRIは）誰に連絡したらいいんだ？」って言われたとおっしゃったのが私はかなり強烈に脳裏に残っていて、つまり、総務省が別に一人でいい子ぶるわけじゃないんだけど、総務省は当時は少なくとも飯田というのがコンタクトパーソンとして1人いたわけですよ。NRIというのも登録はされていたわけですよ。その中で、誰に連絡していいか分からないとチャングタイに言われるというのは、これちょっと並々ならぬ事態なんじゃないのと私は当時思っていた中で、実際、京都までのプロセスを経た中で、それは加藤さん筆頭に活発化チームの中の有志の皆さん、それこそリソースある中で出していただいてということで、猛烈なりカバーリーをしてくださったんだという認識はしているんだけど、他方で、一番最初にチャングタイが言ったこ

とに対する解決ができていないということははっきりさせておきたいというのが、今日私が申し上げたことの根っこにあるということだけは御理解いただければと思います。

そういう意味で、連絡先があればいいんじゃないかとか、言葉を選ばずに言うと、（IGFにおけるNRIの）要求水準の下方側は私も分かりません。だからこそ私もすごい上方の要求水準を活発化チームに対して問いかけるつもりもないんだけど、他方で、やっぱり根っこにあるのはそういったことなんです。それは私の中でかなり強烈、まして政府側として今回のイベントをホストする政府でもあったわけで、さすがになんとかしないといけないという話が正直あって、逆に、このインターネットコミュニティと総務省との間に何か管理監督みたいな概念がなかなかないところで、私も正直何していいか分からなくなる部分もあったわけです。

そういった意味でのところから、これは皆さんのおかげですけど、京都（のIGF）が無事終わった中で、ここは一度、どんな形でもこれはみんなで決めることだと思いますが、マルチステークホルダーの中で、総務省がどうこうとかの話で決まっていなくて、結論がないのは気持ちが悪いというのは常々申し上げてきたことで、これは改めて申し上げたいということでございます。ありがとうございます。

【前村】 前村です。ツーフィンガー的に即座に、私がそれに対する理解として持っているのは、まず、上村さんというコーディネーターがいない中で、じゃ誰なんだというのが1つあるのと、もう一つは、コーディネーターだって全てを代表して振る舞わなくて、日本ってもっと偉い人がたくさんいるよねというふうなところを、あの場からでも感じ取ったんじゃないのかなというふうに思っているんで、そういうふうなことでチャングタイは純粹に分らなかつたのかなと思いましたが、ただ、だから大丈夫だよ、全部とは言う気はなくて、御懸念は真摯に受け止めて、懸念が払拭されるようにちゃんとやらなきゃいけないかなと思います。以上です。

【加藤】 ありがとうございます。私はあの場において、日本でリエゾンがいる、いないということも言いましたが、私少しスピーチさせていただいたんですけども、日本として、京都の会議について、きちっとしたサポートする体制がはっきりしていないということで、【聴取不能】するということが重要だと思っていると。ここにいる人たちはそれを支えている人ですということは申して、チャングタイと、アニャが特にNRIのリエゾンというのが日本では全然会議にも出ていないんじゃないかというようなことがあって、先ほどの西潟課長が言われた御指摘になったわけですけども、それを受けて、山崎さんや河内さんと一緒にNRIとして実質的な活動を始めたというのが経緯です。それをもっと形式的にもきちっとして、その【聴取不能】日本として、このグループで活発化チームなりタスクフォースでやっているものを見えるようにしていかないといけないという課題は非常に大きな問題としてあると思います。

今回の法人化というのも、そのために、さらに活動を強化するためにも、この8項目のような考え方をもう一度ベースに体制をつくるべきなんじゃないかというのが私の考えです。ということを進めて行くにはどうしたらいいかという、たたき台を今これから私が作成できるようにしたいと思いますので、ぜひ我こそは議論に加わりたいという方、先ほど前村さん手挙げていただきましたけれども、ぜひ御連絡いただきたいと思います。それをタスクフォースなり活発化チームに提案していきたいというふうに思います。

ということで、結論が出ないままで19時になりましたけれども、よろしいでしょうか。最後まで少し御発言されたいとか言い残したとかいう方いらっしゃれば、この場でお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

もしなければ、それじゃ次回ですけれども、現在の予定からいうと、書いていただいていますかね。18日にしますか。皆さん、いかがですか。これの肝は、25日は少し間があくということですかね。ただ、先ほど次回の報告会が26、27ということで今決まったので、そういう意味ではこの山崎さんに書いていただいたタイミングからすると、準備とかも併せると、12月18日のほうがよろしいですかね。どうでしょうか。12月18日はいかがでしょう。25日だと多分翌日の会議のこと等が何かあるとすると、あまりにもぎりぎりという気がしますが、いかがでしょうか。

特にこの日がいいとかという御意見ありませんか。

山崎さん、こう書いていただいたのは18日で【聴取不能】これ。

【山崎】 加藤さんの音声は切れていて、18日の後が聞こえませんでした。

【加藤】 すいません、18日でよろしいでしょうか。

【前村】 18日でもいいと思います。

【加藤】 26、27に報告会やるとすると、会議の宿題に対応する時間を考えて、18日ぐらいだと非常にいいのかなという気がしますが、25日より。いかがでしょうか、皆さん。

すいません、私の声があんまり聞こえにくいですか。

【山崎】 今は大丈夫です。

【加藤】 大丈夫ですか。

【山崎】 時々切れるんですが、ひょっとしたら私の自宅のネット環境が遅いせいかもしれない。

【加藤】 ひょっとすると私の問題なんじゃないかというふうに思います。

【山崎】 ほかの皆さんは特に不具合を感じていらっしゃらないのであれば、無視してください。

【加藤】 それじゃ、18日ということで、次回、26、27の報告会の準備の件も併せて、次回18日というふうにやらせていただきたいと思います。

どうも今日も長時間、大変…

【山崎】 すいません、次回に向けたTODOを確認したいんですが、8項目を実現するためのチームのメンバーを募集するだけでよろしいんですか。

【加藤】 はい。それと、京都の報告会の準備のほうは粛々と進めるということと、その2つだと思っています。

【山崎】 分かりました。

【加藤】 大変長時間にわたってありがとうございました。貴重な意見で、ぜひ、この先に進む方法を皆さんと一緒に決めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。どうも今日は長い間ありがとうございました。